

永野小学校地域防災拠点について

2023年7月

永野小学校地域防災拠点運営委員長
山田敏明

- ① 防災に関する行政の規定・枠組み
 - ・ 災害のタイプによる行政と地域の役割分担
 - ・ 地震災害に対する、地域防災拠点の運営と役割(運営委員会)
- ② 地域防災拠点と4自治会連携について
- ③ 実際の拠点開設・運営について
(運営委員としての役割 手順指示シートのセット
(指示セット)の説明)

横浜市の防災活動

横浜市防災計画 全体構成等より整理

気象災害

(集中豪雨・台風等)

＜市区など行政の対応＞
予測・予報を基に
順次リスクに対応

・警報・勧告・指示可能

・地域ごと避難所等の設置・運営
市区が行う

＜地域の対応＞
行政の指示に従う

地震災害(震度5強以上)

＜市区など行政の対応＞
発生後、対応開始
ライフライン復旧等に集中
地域ごとの対応は行わない
(できない)

＜地域の対応＞
避難所等の設置・運営
地域防災拠点運営委員会
(住民)が行う

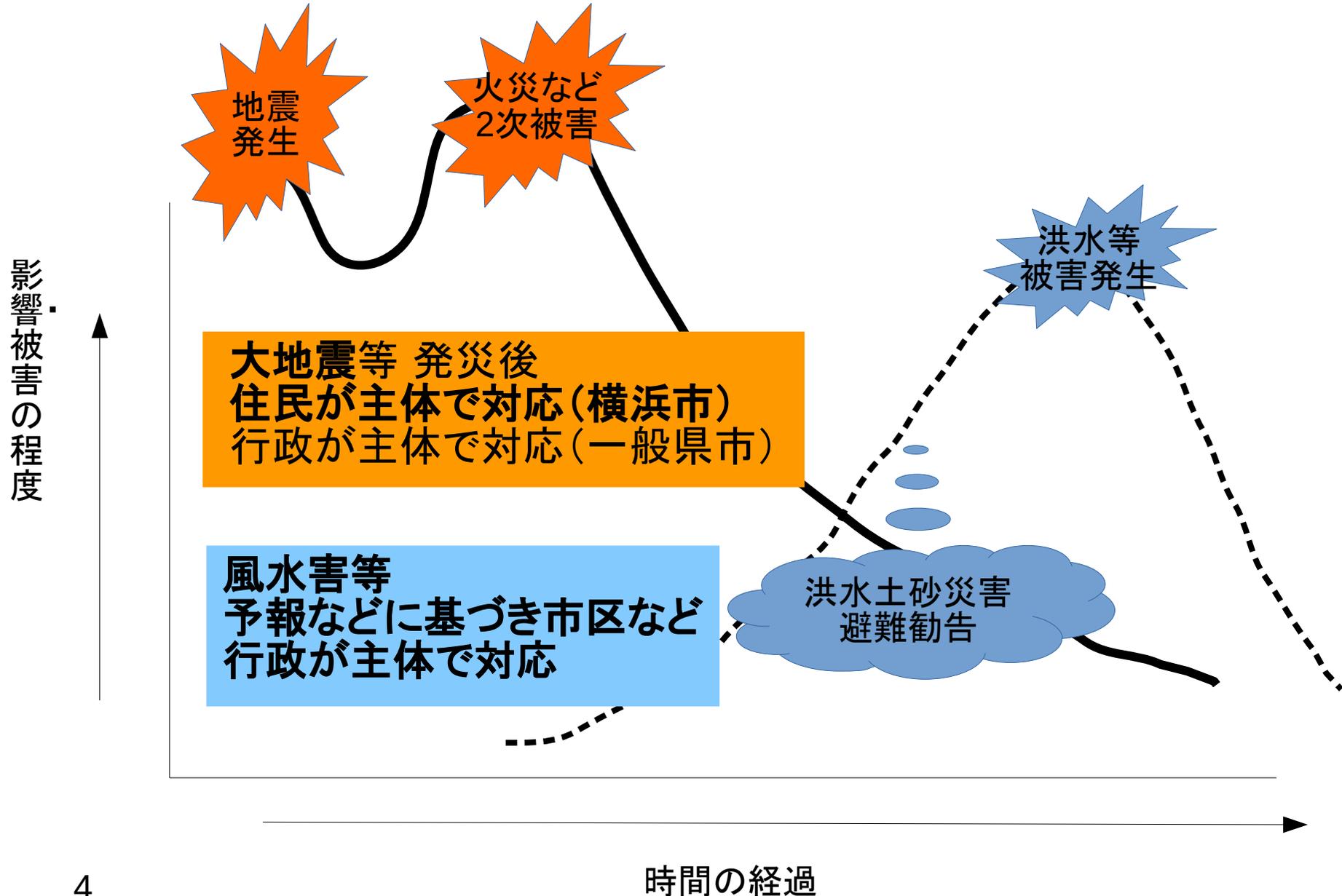
横浜は分離 他都市行政は未分離
自助・共助(自衛)の準備と知識がより大切

前提となっている地震(震度5強)と 被害想定からの対応検討

〈震度5強以上の被害 甚大で影響長期〉

- 歩くこと立っていることが困難
- 食器・本等落下、家具の大半が移動、
- ブロック塀等が崩れ壁のタイルや窓ガラスが瓦破損落下 建物が傾いたり、倒壊
- ライフラインが停止
(電気・ガス・水道が利用不可 一部列車脱線)
- 軟弱な地盤で亀裂発生し一部道路が使えない

災害種別による特性 (発生と被害のパターンの違い)



地域防災拠点の運営委員会（横浜市HP 地域防災拠点より）
構成 **地域住民** 行政（区） 学校等

< 平常時の主な活動 >

- (1) 避難場所運営 **マニュアルの作成**
- (2) 防災資機材等の取扱講習及び防災研修会の開催
- (3) 防災訓練の実施及び地域の防災リーダーの養成

< 防災拠点での訓練（H28版市マニュアルより） >

避難者の受け入れや、開設・運営に係る訓練（図上訓練など）
「防災指導型訓練※」からの脱却

※「消火器取扱い」「三角巾」など、個人のスキルアップ

< 発災時 >

防災拠点の立上げ、運営をマニュアル等に基づき主導する。

地域防災拠点（震災時）の構成と役割

港南区防災計画より

<開設・運営>

運営委員会が行う（**地域住民**） 港南区約30ヶ所

地域防災拠点の開設及び運営、情報の受伝達、救出・救護、食料等物資の配布、避難所での相互扶助、防犯パトロールなど

<指定・サポート>

行政（市・区などが行う）

地域防災拠点の指定、安全性、食料等物資の事前確保
医療救護、情報の受伝達や開設・運営支援などサポート

<学校等>

児童生徒の安全確保、学校施設の管理、地域防災拠点の開設・運営支援など

永野小学校地域防災拠点の現状

- 横浜市で震度5強以上の地震が発生した場合、
地域防災拠点は拠点運営委員会(住民)が自主開設
開設から運営まで(自助・共助)
上永谷町内会 約1,700世帯 美晴台 約600世帯
菱興 約300世帯 富士見台 約200世帯 約3,000世帯 1万人
- 地域防災拠点拠点の機能(見直し中)
地域災害対策拠点(物資集積、情報センター、行政との連携)が主機能
避難所機能(従)コロナ前 収容300名弱 3% 期待しない方向
(⇒コロナ感染対策を講じた場合 収容50人~60人 0.5%絶望的)
避難者はお客さんではなく、協働運営者！！
- 市区など行政は自助・共助 在宅避難の周知を進めている。
浸透が不十分 対応する実際の計画修正、仕組み整備は
徐々にしか進行していない。

永野小学校地域防災拠点 運営委員会の構成

上永谷町内会
3名以上

菱興上永谷自治会
3名以上

区役所
職員

永野小学校
職員

幹部会(各自治会・町会長及び補助委員)
 委員長 山田 上永谷富士見台
 副委員長 高橋 上永谷
 副委員長 奥嶋 美晴台
 副委員長 村野 菱興上永谷
 副委員長 瀬之間 上永谷
 副委員長/技術 熊谷 上永谷
 副委員長 山口 上永谷
 副委員長 小池 上永谷
 副委員長 黒川 民生

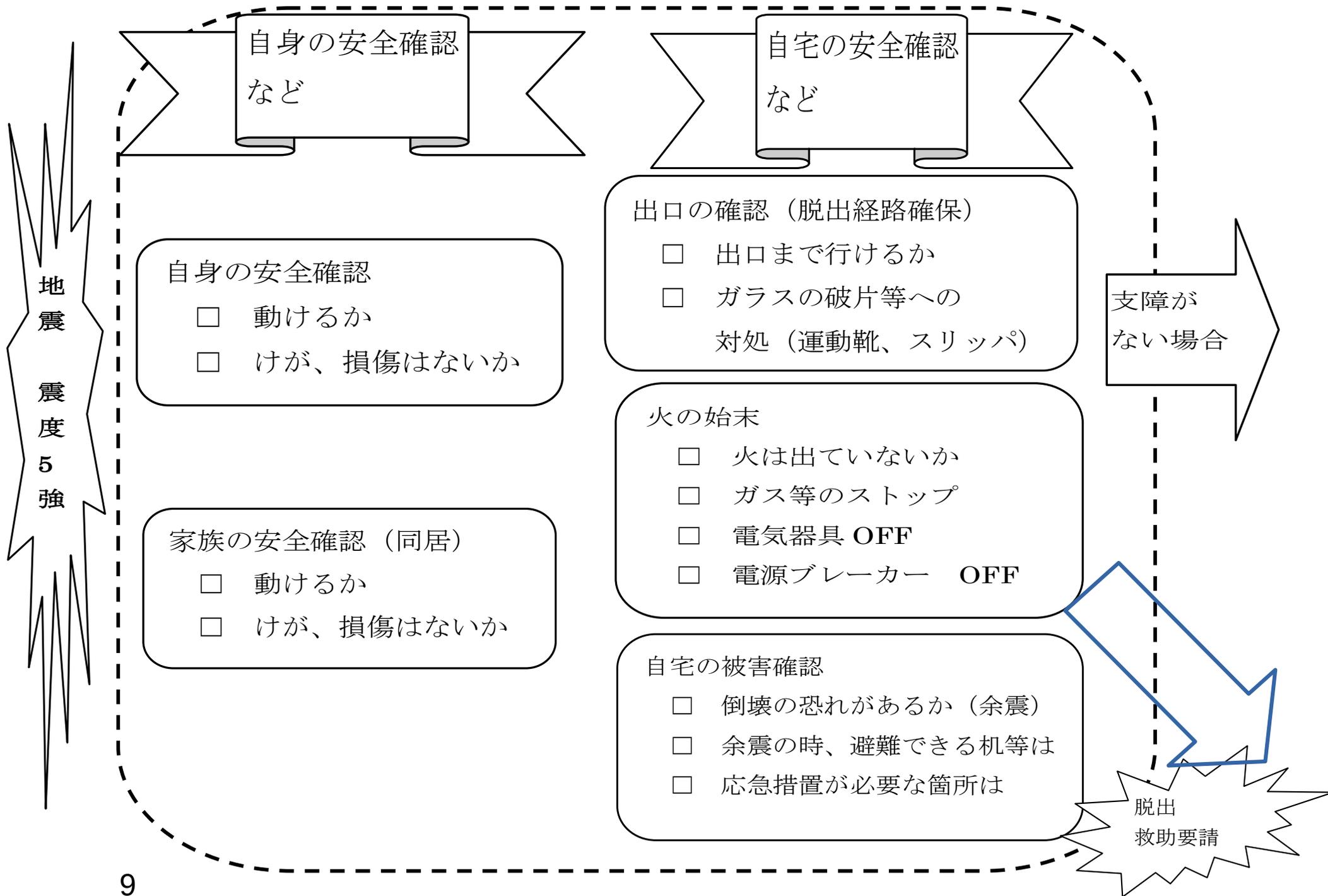
美晴台自治会
3名以上

上永谷
富士見台自治会
3名以上

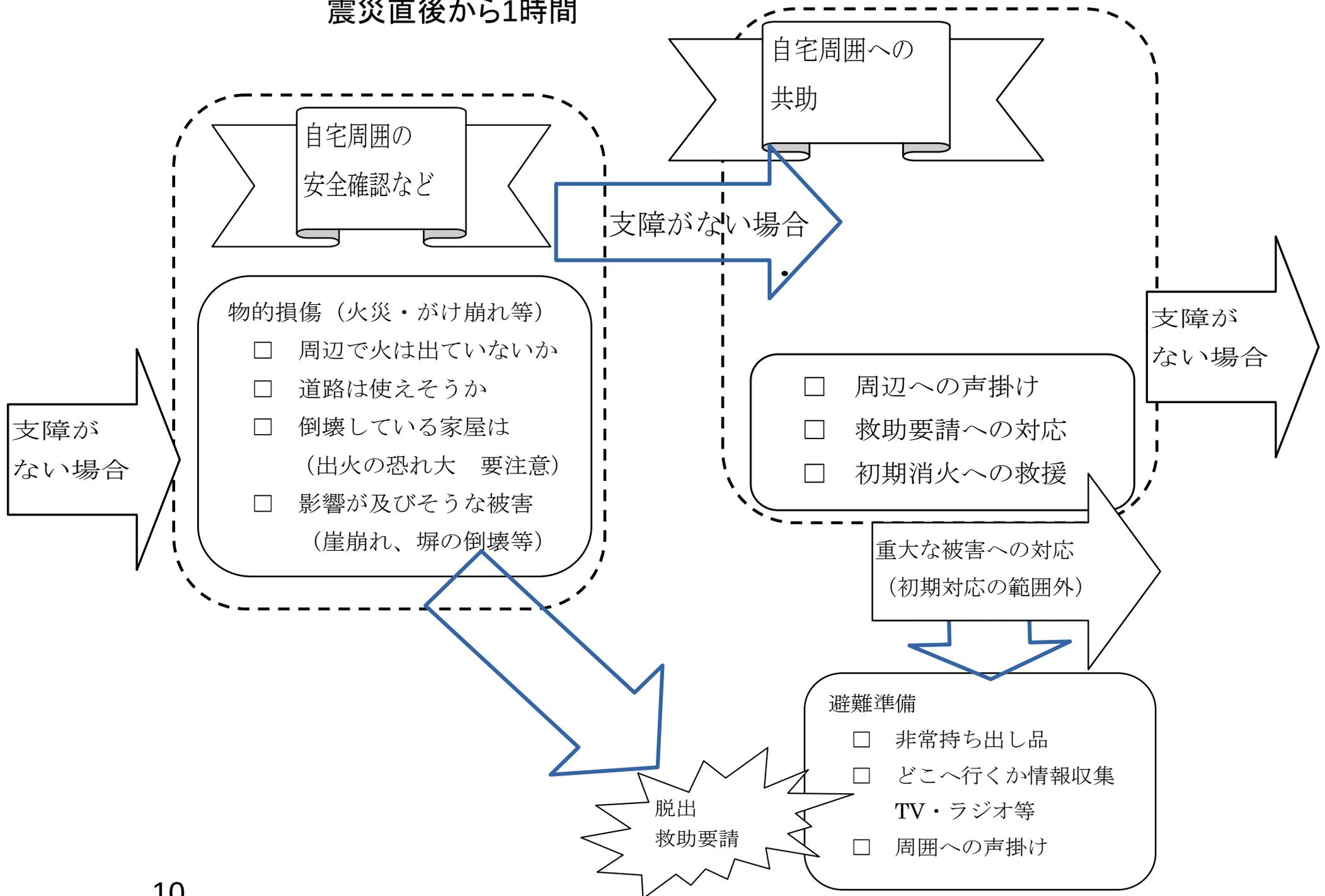
事務局 矢野 美晴台

委員の人数
幹部会11名+一般12名=23名程度

運営委員参集までの想定 自助(各家庭)対応 震災直後



共助(向こう三軒両隣)対応 震災直後から1時間



共助（自治会や地域防災拠点との連携）
震災発生後1～3時間以降

自治会や町会の 対応

自治会・町会災害対策本部

- 会館等への参集
- 責任者 決定
- 会館の安全確認
- 防災倉庫の安全確認

安否確認

- 被害状況カード
 - 未届け確認
 - 台帳へ整理
- 発電機＋自治会 PC等の活用
- 状況を更新

救助準備

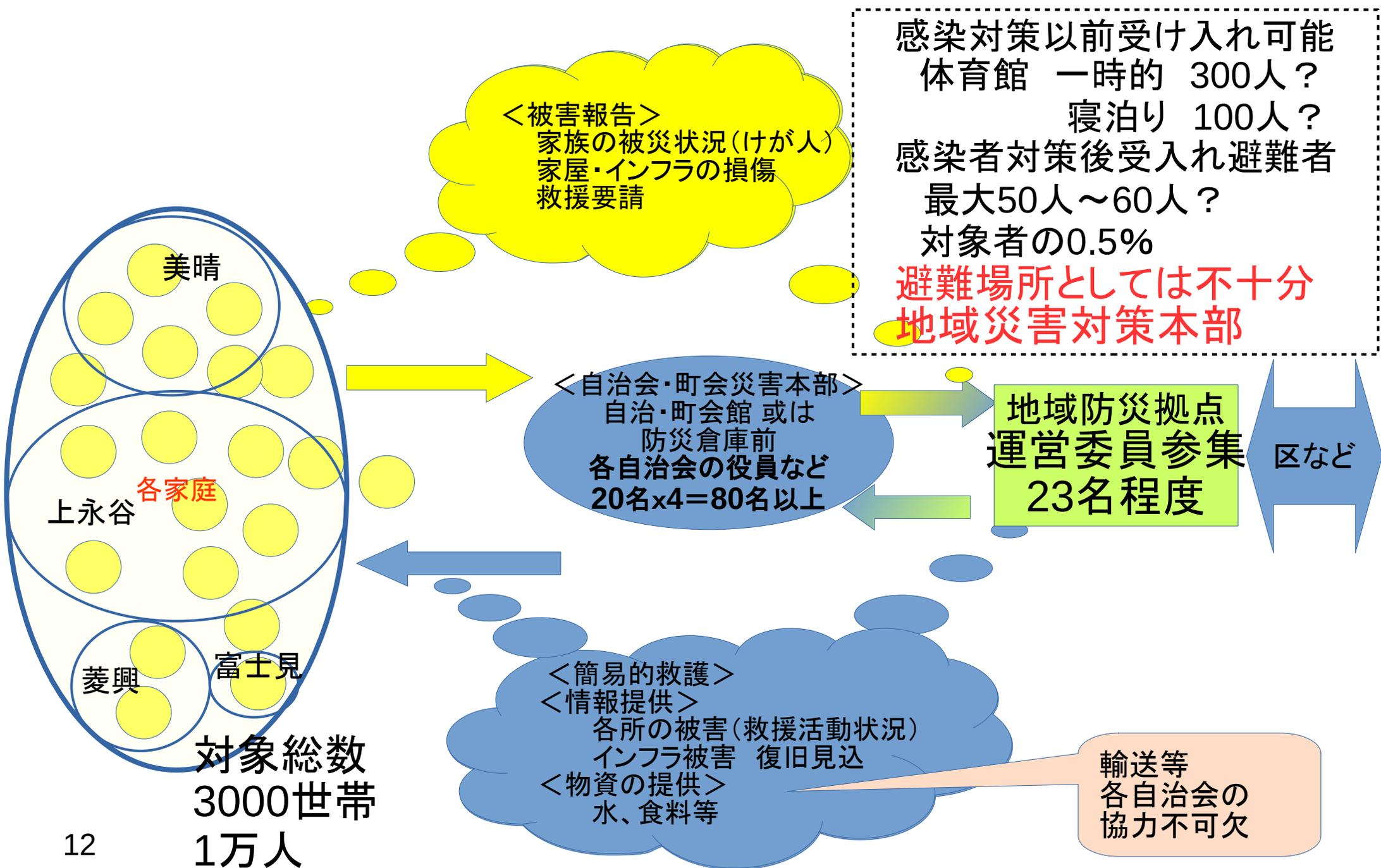
- 協力者を要請
- リーダ選任
- 各リーダーが指揮

永野小学校地域防災拠点との連携 ※

- 被害状況報告
- 救援要請あるいは応援派遣
- 物流等の相互協力

地域
防災
拠点

震度5強 地震被災時の想定シナリオと人員規模



地震災害時対処用ツールの必要性

＜発災時立ち上げる防災組織の相違点を考慮した対応＞

企業・役所は平時組織人員の組替えをマニュアル化

⇒平時の指揮系統、役割を活かす(全ての人員が参集する)前提
横浜市のマニュアル雛形も同じパターン

自治会町会・拠点は発災時、誰がいるか不明(72時間は、いる人対応)

朝、昼、晩で変動し、一斉帰宅抑制ルール(72時間職場待機)がある為

⇒初期対応時に、役割分担、指揮系統を都度、構築し運用する
必要がある(平時担当者を決めても参集出来る保証なし)



横浜市雛形を参考にマニュアルを作成(2018年初版以後、毎年改訂)

形態: 指示セット(ツール)と、各シートを印刷しまとめたマニュアル冊子

内容 組織の立上げ方(役割 人員)

「何を」「どのように」「どの手順で」等をわかり易く指示
(知見の乏しい複数の人で協働できる形式)

永野小学校地域防災拠点 ツールの整備状況 初期手順指示シート(指示セット)を作成し更新中



永野小学校
体育館裏
横浜市防災倉庫
鍵:各会長など保管



入口をいって左スチール棚
指示セットの収納ボックス



指示セットの
収納ボックス
上面



指示セットの
収納ボックス
中の状態

※指示セット
マニュアル、記入用紙書式等をまとめたもの

使い方概要

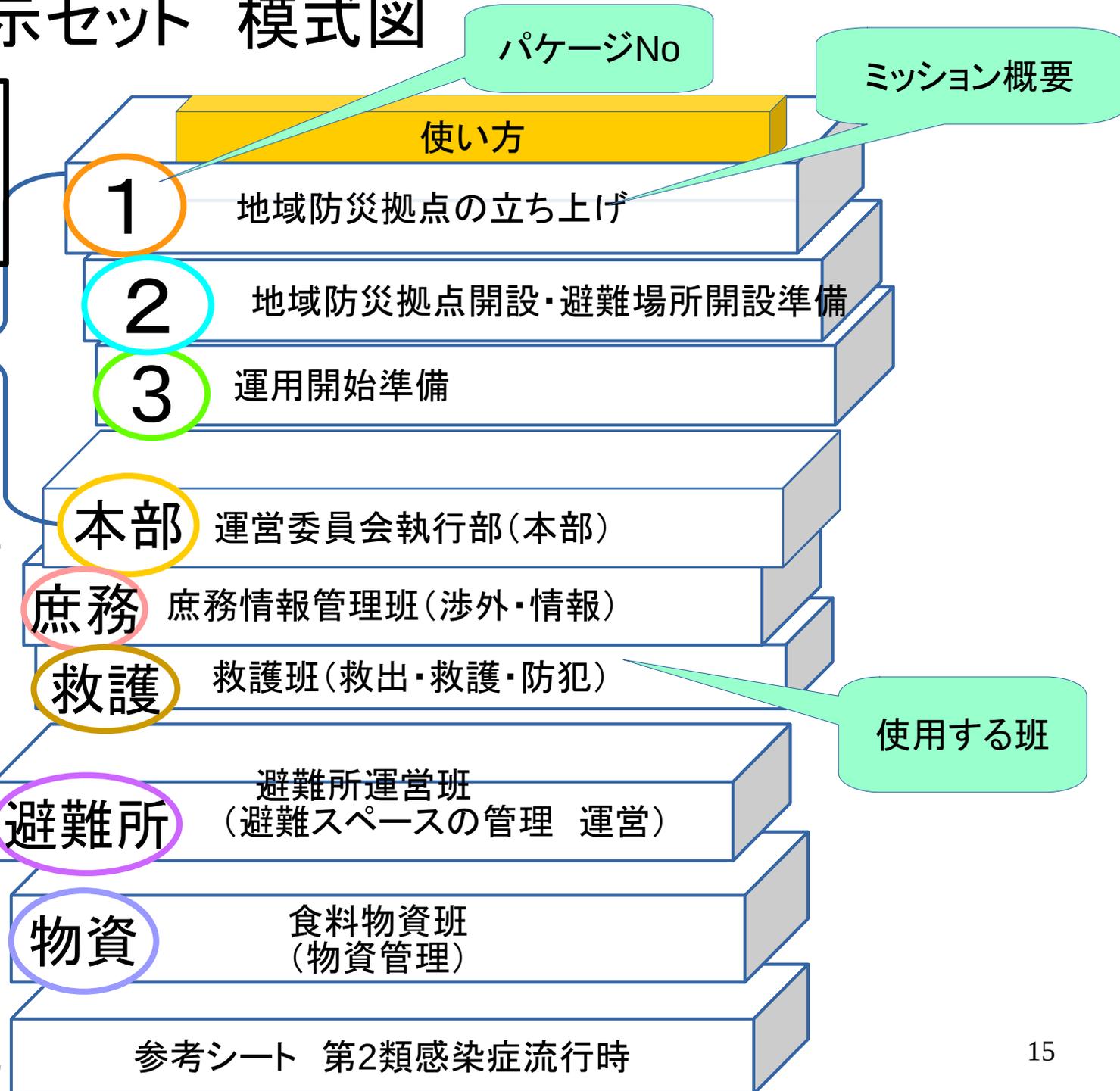
指示セット 模式図

全体像は今年度配布の
マニュアルで確認できます。
責任者、運営委員はマニユア
ルも参照

番号順に書類ケースを取り
出し、中のシートを
上から順に参照し
実行を依頼
(時系列で実施)

運用開始準備時点で
各班に該当する書類
ケースを班長に渡し、中
のシートをテーマ別に実
施

テーマ別となっているの
で、更に、各テーマの責
任者にシートを
示し実行を依頼



永野小学校地域防災拠点 ホームページ



URL

<https://www.naganokyoten.yamadat.com/bousai>

内容

指示シート・マニュアルなど

掲示

外部リンク集

コア会議・幹部会・運営会議など

運営委員について